

担当教員 松尾瑞穂		Instructor Name MATSUO Mizuho		
開講期 前学期	Class Starts at 1 st Semester	開講期間 半期	Period One Semester	対象年次 / Suggested Grade 3,4,5
科目コード / Subject Code 20DCSa05		単位 / Credit 2		
科目名称： 比較社会研究演習 I				
Subject: Seminar I (Social/Cultural Anthropology)				
<p>授業概要：</p> <p>生殖医療とリプロダクションの人類学 / Anthropology of Reproduction and Reproductive Technologies</p> <p>近年、生殖医療技術の進展により、これまで自明視されてきた（近代）家族観にゆらぎや強化の変化が生じ、自然／文化を前提とする親族研究も刷新されている。本講義では、生殖医療に関する人類学的研究の動向を把握することを通して、医療技術、生殖、家族・親族、ジェンダーが交差する新しい人類学的領域について理解することを目的とする。開講形態は講義と受講者による文献発表を主とする。</p>				
<p>教育目標・目的：</p> <p>生殖医療の人類学の新しい動向を把握し、まとめることができる。</p> <p>親族研究と医療技術論の二つの研究領域について理解することが出来る。</p> <p>英語文献を読解し、発表することが出来る。</p>				
<p>授業計画：</p> <p>生殖医療を手がかりに、家族、親族、身体、サブスタンス、医療、科学、ジェンダーなどに関するこれまでの人類学的研究とその変化について、講義、文献読解、ディスカッションを通して考察する。授業計画は以下の通りである。</p> <p>1～2 生殖医療の人類学とは</p> <p>3～4 親族研究における親子関係</p> <p>5～6 サブスタンス研究</p> <p>7～8 生殖医療研究（欧米）</p> <p>9～10 生殖医療研究（中東イスラーム社会）</p> <p>11～12 生殖医療研究（南アジア）</p> <p>13～15 新しいつながり—遺伝子と DNA</p> <p>受講者は、以下の文献を読解し、発表することが求められる。</p> <p>(1) Carsten, Janet (ed.) 2000 Culture of Relatedness: New Approaches to the Study of Kinship, Cambridge Univ. Press.</p> <p>(2) Wade, Peter (ed.) 2007 Race, Ethnicity and Nation: perspectives from kinship and genetics, Berghahn Books.</p>				

(3) 河合利光編 2012 『家族と生命継承—文化人類学的研究の現在』、時潮社。

(4) Bharadwaj, Aditya 2016 Conceptions: Infertility and Procreative Technologies in India, Berghahn Books。

成績評価：

文献講読発表（50%）と課題レポート（50%）により評価する

実施場所：

国立民族学博物館総研大演習室

使用言語：

日本語

教科書・参考書：日本語

河合利光編 2012 『家族と生命継承—文化人類学的研究の現在』、時潮社。

備考：日本語

地域文化学・比較文化学の二専攻の学生のみ受講可